

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について

①由比こども園での活動について～由比のよさを感じられる保育～

園の周りを山、海、川に囲まれた自然豊かな場所で子どもたちは生活しており、園内はもちろん、園外に出かけるときも毎回異なる発見を楽しんでいる。地域の方々も、たいへんあたたかく子どもたちを見守ってくださっている。春には由比漁協の青年部から生きた桜えびが届き、その動きや色、かわいらしさに子どもたちは興味津々だった。夏は特産である夏みかん狩りや、漁船に乗ってのヒラメ稚魚放流、秋は浜石岳方面へ足を伸ばし、季節の移り変わりを五感を通して味わった。冬には由比漁港へ出向き、かきあげ屋さんに桜えびドーナツを作っていただいて、あたたかな気持ちになった。

また、年間を通じて、地域のデイサービスや食育推進会、人形師さんとの交流も複数回行っている。特に年長児は、望月人形店の人形師さんとの交流が深く、今年度は計5回お話を聞く機会があった。決して易しい言葉での話ではないが、何度も顔を合わせるうちに親しみをもち、お話を楽しみにする様子があった。子どもたちにとって、人形師さんは“大好きなおじさん”になり、2月に行われた表現遊びの発表会にも来てくださり、子どもたちはたいへん喜んでいました。

このように本園は地域の力が非常に強く、園での活動を通して、子どもたちの「由比っていいな。」の気持ちが膨らんでいることを感じる。これからも地域とのつながりを大切にしていきたい。

②年長ふじ組の活動～つばめこうくうの1年間～

①で述べたように園全体で、地域のよさを子どもたちが感じられるような活動を数多く取り入れているが、今年度の年長児はその中でも特に鳥への興味が深まった1年となった。

初夏、由比川の近くまで遊びに行ったときにつばめを見つけ、心を奪われた子どもたち。それからは、散歩に出かけるたびにいろいろな鳥を見つけては図鑑で調べ、鳴き声や大きさ、色、飛び方等鳥についての研究を重ねた。絵本『つばめこうくう』と出会ってからは、さらに鳥への興味が深まり、夏のプールを“南の島”と呼んで、毎日のフライトを楽しむうちに、苦手だった水がどんどん好きになっていった。秋になると、知っている鳥の数も増え、運動会では様々な鳥に変身して“トリンピック”を楽しんだ。運動会後は「自分たちのつばめこうくうを作りたい!」と、友達と力を合わせて大きなつばめこうくうを作ることを楽しんだ。ゆいっこまつり(バザー)では、保護者や地域の方をつばめこうくうに招待し、ジュースや手作りのクッキーでもてなした。冬には発表会があり、そこでも子どもたちが作りたいのは『つばめこうくう』の劇だった。今まで見つけた鳥の中から演じたい鳥を選び劇を作った。選んだ鳥に変身するために、子どもたちは、園では図鑑や写真等を見て衣装を作り、自宅に帰ってからは、保護者の方と一緒にパソコン等で鳴き声や飛び方を調べた。発表会での姿は本物の鳥のようで、お客さんからたくさんの拍手をいただいた。

たくさんの魅力がある中でも、一つのことについてとことん掘り下げることで、子どもたちの地域への愛情、身近な動植物への興味関心がさらに深まった。

③活動状況の発表について

平成28年 12月

国際化・ESDカフェ in 静岡市

主催：静岡大学 ESD・国際化 ふじのくにコンソーシアム

会場：静岡市産学交流センター

『ワクワクが繋がる保育～つばめこうくうテイクオフ!～』

大好きな鳥に変身!
友達と元気にできたよ!



つばめこうくうに
お客さんをご招待!
手作りクッキーを
喜んでくれたよ!



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（）